

RFID特集によせて

平素はNECの製品をご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、ユビキタス技術で豊かな社会を実現しようとする、政府の進めるu-Japan構想が2004年5月発表され、今年は3年目になります。いつでも、どこでも、誰にでも、サービスを共有することのできる社会づくりをする上で、RFID(Radio Frequency Identification)は欠かすことのできないキーコンポーネントとして、注目を集めています。

企業において、RFIDは、実証実験から実導入へと進み、さらに企業間へのインフラとして、導入が進み始めています。そして、業界全体のサプライチェーン自動化へのさらなる進展や利用拡大が期待され、新たな付加価値が求められています。企業価値を高め、安心・安全な社会を構築していくためにも、RFIDは重要なツールとなってきています。

NECでは、早くからRFIDの持つ可能性を評価しており、研究所から実証実験に向けた実証センターを2002年に立ち上げ、基礎研究から実証実験に取り組んでまいりました。さらに2004年10月には、RFIDビジネスソリューションセンターを設立し、実用化を推進しております。

個別企業内へのRFID適用としては、自社のパソコン製造工場に、国内初となる生産管理でのRFID導入を果たしました。生産指示書をRFIDに変えるだけでなく、業務改善を行うことにより、品質改善と10%以上の生産性向上を達成しました。さらに第2ステップでは、RFID付電子かんばんを導入し、サプライヤーへの受発注情報をリアルタイムで転送することにより、サプライヤーとの部材調達サイクル時間を大幅に短縮することができました。このように、自社で適用したノウハウをもとに、製品・ソリューションをお客様に提供し、導入の支援を行っております。

RFIDは、表面的なコンポーネントの組み合わせでシステム構築ができるものではありません。無線と認識の技術を押さえることは重要と考え、今まで実証実験から得た知識を世の中に役立てたいと思い、

2005年8月には、株式会社秀和システムより、『図解入門 よくわかる最新無線ICタグの基本と仕組み』と題した本も出版いたしました。

標準化活動としては、総務省の小電力無線システム委員会への参画、響プロジェクトへの協力、国内初のSIerとしてEPCglobalへの加入、ユビキタスIDセンターへの加入などを積極的に行い、NECの保有するデバイス技術、無線技術、ソフトウェア技術などの分野で標準化策定にも貢献しております。

EPCglobalの加入につきましては、2004年5月、ソリューションパートナー会員として加入し、国内初となるEPCglobal準拠のミドルウェア、「RFID Manager」の販売活動を開始するなど、他社に先駆けた積極的な事業を展開してまいりました。2005年10月、エンドユーザー会員に加入変更することにより、EPCglobalで規定したEPC (Electronic Product Code) を使用し、EPCglobalネットワークシステムをビジネスに活用することができるようになりました。EPCglobalネットワークシステムを活用した、より先進的なシステムの提供が可能となり、広く世界市場に向けてRFID関連事業を拡大してまいります。

本「RFID特集」が、皆様の事業活動に役立つ情報となりましたら、誠に幸いです。今後とも、皆様方のいっそうのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



執行役員
安井 潤司